

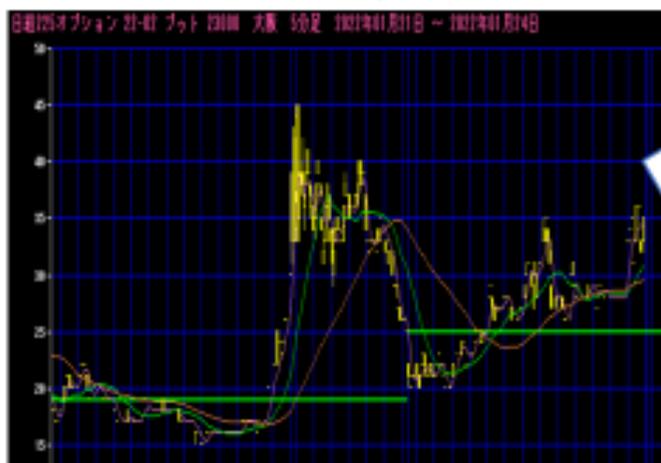


買い戦略の例（1月26日放送）



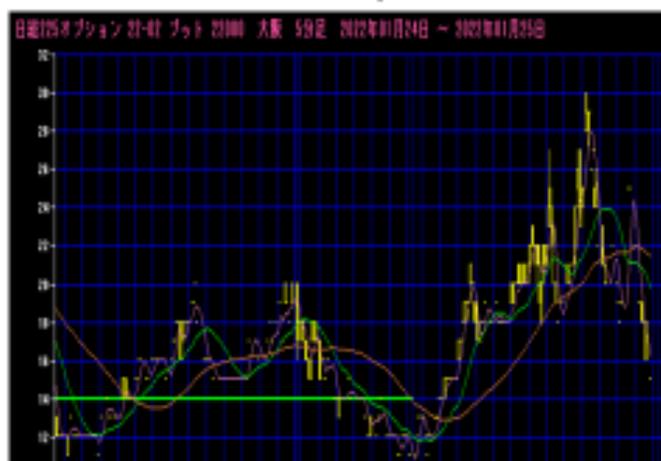
出所 & ©) <http://www.chartfind.net/chart?code=n225>より、筆者傾向線追加)

22年2月限23000PUT (1/21~24)



19日の下げを見ての仕掛けでも、20日に戻したところを逆張りで仕掛けても、チャンスだったと思います

22年2月限22000PUT (1/24~25)



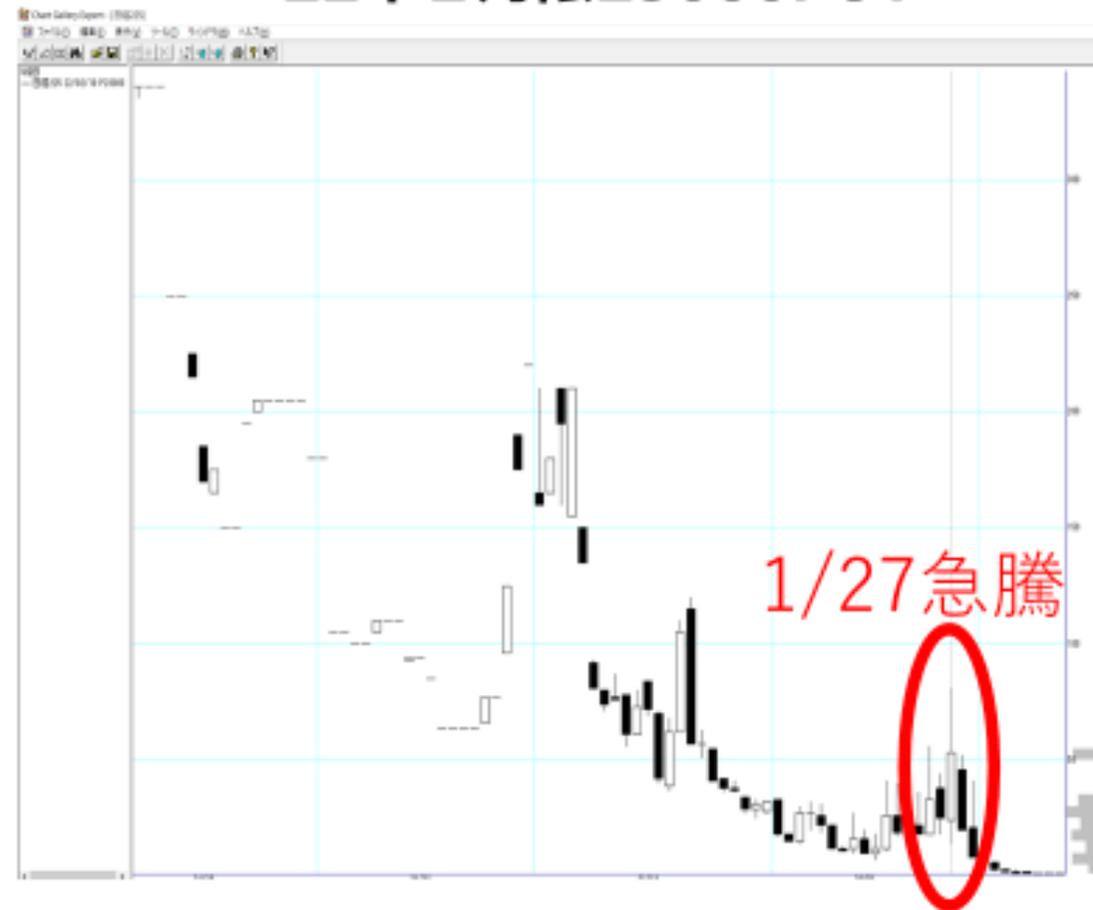
出所) ブルームバーグ、日本経済新聞より筆者作成 (2022年1月25日現在)

23,000円プット買い

日経225



22年2月限23000PUT



無料メルマガ「グレイ・リノ通信」

オプションが分からない方でも 優しくオプションを学ぶことができる

オプション倶楽部 講師：日経OP売坊

OP売坊 戦略コース

通信スクール

日経OP売坊さんのラジオ資料やここでしか読めないインタビュー記事などを配信。補足Q&Aやオプション取引に関する情報も配信しておりますので、ぜひぜひご活用ください！

[ラジオ配信情報はこちら](#)

メールアドレス

メルマガ登録

180日間のオプション学習コース（2021年9月1日～2022年2月28日）

99%の確率で年率15%の収益を安定的に稼ぐことを目的としています。成功へのカギは確率統計とリスク管理だけ！（エクセルシート付き）

- 1)番組資料のプレゼント
- 2)オプションに関する情報やQA

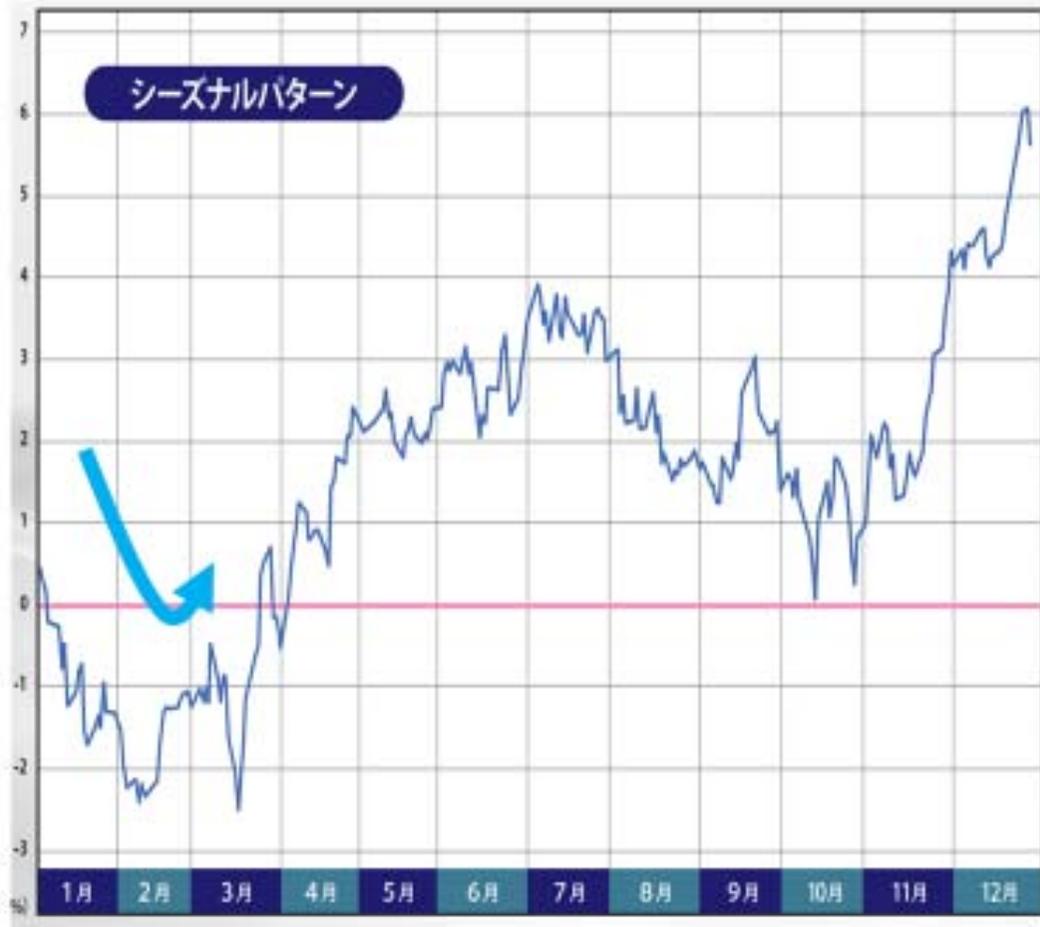
——掲載していただいたチャートは日経平均が三角保ち合いを下げたという形でしょうか？

このチャートを見る限り、日経平均が三角保ち合いを下げたと考えられると思います。

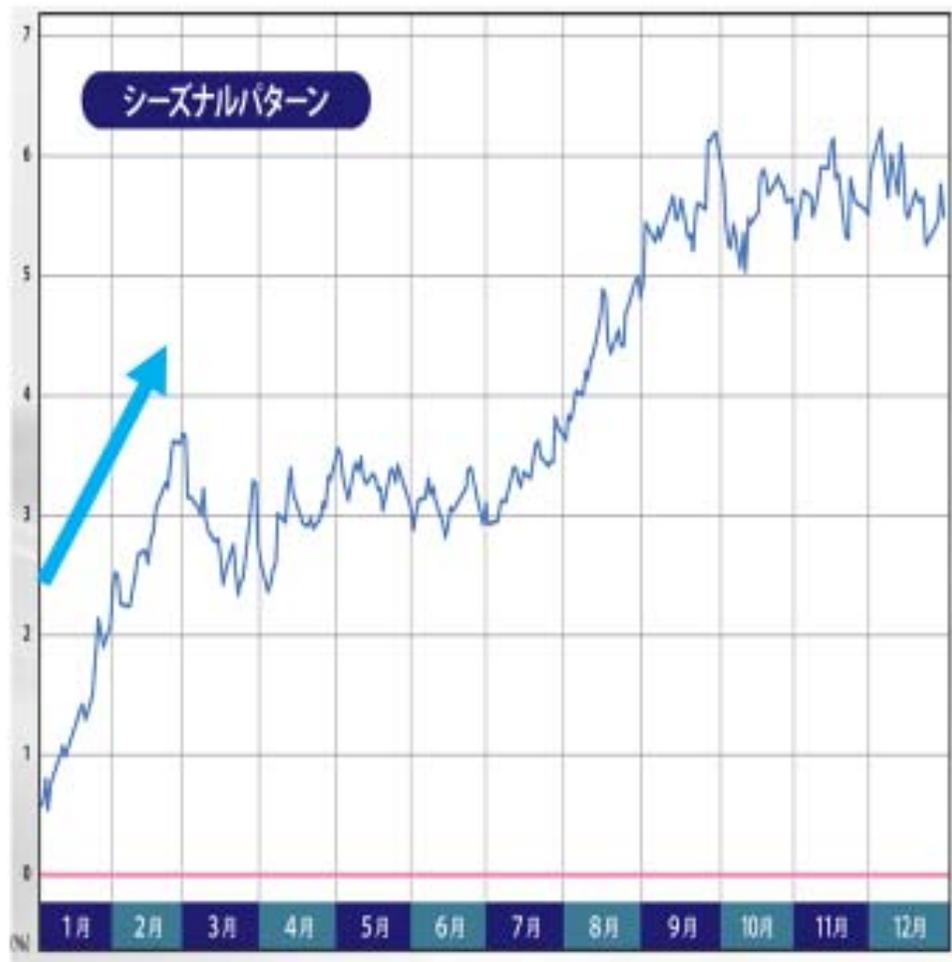
——掲載していただいた23000PUT買いの例は19日の下放れをみてのトレードでしょうか？ それとも20日に戻したところを逆張りした形でしょうか？

両方ともチャンスだったと考えています。

日経平均



ゴールド



2月24日(木)19:30～ 購入者限定フォローアップセミナー開催！

投資アノマリーカレンダー2022

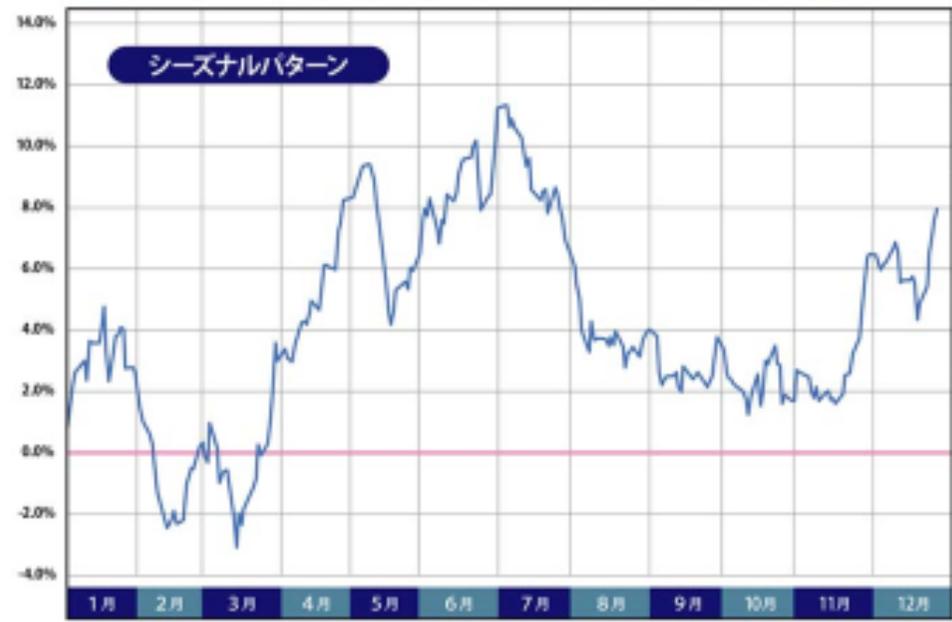
月間ベースの平均リターン(%)と勝敗(各20年、10年、5年)

単位年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
17年	平均% 2.89%	-2.76%	2.34%	5.58%	-1.19%	2.24%	-3.10%	-3.17%	-0.27%	-1.63%	3.52%	2.09%
勝敗	9勝4敗	7勝10敗	8勝9敗	10勝7敗	8勝9敗	10勝7敗	6勝11敗	4勝13敗	9勝4敗	6勝11敗	12勝5敗	11勝6敗
10年	平均% 3.61%	-0.14%	0.71%	6.20%	2.25%	0.12%	-1.19%	-2.17%	3.53%	-1.03%	4.40%	-0.57%
勝敗	5勝5敗	4勝4敗	4勝4敗	6勝4敗	6勝4敗	5勝5敗	3勝7敗	3勝7敗	4勝4敗	4勝4敗	6勝2敗	4勝4敗
5年	平均% 1.61%	-2.17%	2.55%	5.64%	5.53%	-1.37%	-3.99%	0.90%	4.80%	-3.61%	4.56%	-3.36%
勝敗	3勝3敗	3勝3敗	3勝3敗	2勝3敗	3勝3敗	2勝3敗	1勝4敗	2勝3敗	4勝0敗	1勝4敗	4勝1敗	2勝3敗

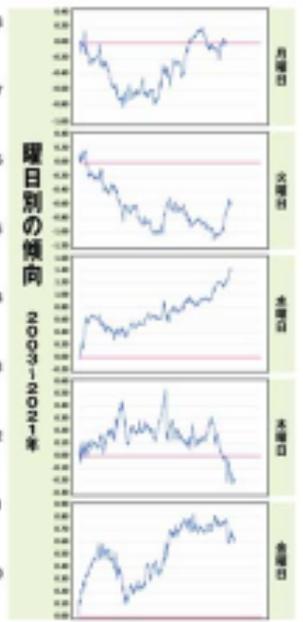
月間ベースの平均上昇率(各20年、10年、5年)



NYダウ、ナスダック、
日経平均、米債、金、原油、
大豆、ドル円、ユーロドル、
そして東証33業種を公開



20年間のシーズナルパターン(季節要因)



曜日別の傾向(20年)

ラジオNIKKEI

2022年5月開始で新規会員（第3回、定員30名様）の募集を予定しています。それに先立ち**4月23日（土）**にZoom配信で「オンライン入門セミナー」を開催する予定です。詳しくはオプション倶楽部「optionclub.net」をご覧ください



『賢者のマーケットインサイト』資料

(2022年2月16日放送分)

- この資料は、ファイナンシャル・リテラシーの向上のみを目的として作成されたものです。
- したがって、いかなる投資勧誘の目的で作られた物ではございません。
- この資料での数値などにつきましては、信頼できる筋からの情報に基づいておりますが、その正確性を保証するものではありません。
- 投資につきましては、あくまで、自己責任でお願い申し上げます。
- 日経OP売坊は一切の責任を負いかねます。ご了承ください。

2022年3月限・4月限SQ日までの注目イベント (P.2)

<米国>

- 2月17日: FOMC議事録公表
- 3月04日: 雇用統計・失業率
- 3月10日: 消費者物価指数
- 3月17日: FOMC政策金利
- 3月18日: 米メジャーSQ
- 4月12日: 消費者物価指数

3月の0.5%利上げは、確度が高いと考えています。雇用統計・CPIが利上げを促すものであれば、当然、米国株に逆風となり得ます。金利や賃金などのコストが上がれば、企業業績にはマイナスとなりますから

<欧州>

- 3月10日: ECB政策金利
- 4月14日: ECB政策金利

<日本・世界>

- 2月04日~20日: 【中国】北京五輪
- 2月18日&3月18日: 消費者物価
- 2月28日&3月31日: 鉱工業生産指数(速報)
- 3月04日: 失業率
- 3月10日: 企業物価
- 3月11日: 日本メジャーSQ
- 4月01日: 日銀短観



※SQ日は期近(月次・週次)の未決済建玉が清算されるためオプショントレーダーにとって区切りとなる日です。

2022年 2月

			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28						

2022年 3月

			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

2022年 4月

						1	2
3	4	5	6	7	8	9	

- 日経225週次オプションのSQ日
- 日経225ミニ先物・月次オプションのSQ日
- メジャーSQ 日経225先物・ミニ先物・月次オプションのSQ日

注) 予定は予告なく変更される場合があります。
出所)ブルームバーグ・ロイターなどから管理人作成



OP売坊のグレイ・リノ (P.3)

サイは普段おとなしいが怒ると、とっても怖いのだ

- 🐘 世界的な自然災害拡大等で食料価格高騰か？
- 🐘 地政学的リスク(ウクライナ)
- 🐘 原油価格高騰(WTI100ドル越えも)
- 🐘 米国インフレ加速でスタグフレーションへ
- 🐘 **米国の長短金利動向 [📄P5~7]**
- 🐘 日本の2030年問題
- 🐘 TOPIX・日経平均の見直し・変更
- 🐘 3月の日米メジャーSQ
- 🐘 岸田政権と参議院選挙
- 🐘 北京五輪(判定の不透明さ)
- 🐘 中国不動産バブル崩壊懸念
- 🐘 日米中の財政悪化と増税
- 🐘 **バフェット指数の異常値 [📄P9]**
- 🐘 など

実際にロシアがウクライナを侵攻した場合、世界の株価に一時的にショック安が出るかもしれませんが。問題は紛争が長期化するかですね。日本はロシアから、石油ばかりでなくLNGや石炭もかなり輸入しています。



日米の3月SQを絡めて、大口投資家が仕掛けてきて大荒れの展開になる可能性は否定できません

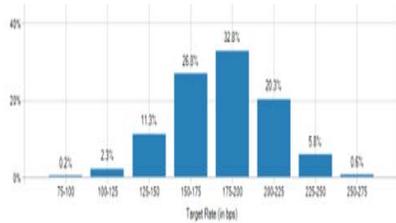
五輪競技での判定の不透明さが問題となっています。中国の「取り込み」を象徴しているのかもしれませんがね。習近平の実績作りが米中二大勢力のさらなる関係悪化を招くかもしれません



グレイ・リノ（灰色のサイ）とは、高い確率で大きな問題を引き起こすと考えられるにも関わらず、軽視されている事象のこと。それが起これば、大きな値幅が出るため、オプション投資家に重要となる。特に**PUT買い**を仕掛けられる可能性や、破産もあり得る**PUT売り**を避けられる可能性が高くなる。

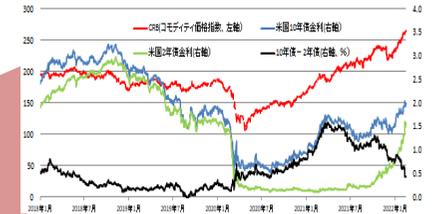


2022年の日本株市場を取り巻く環境 (P.4)



米国長短
金利上昇

インフレ懸念



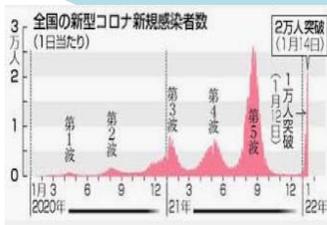
日本株市場



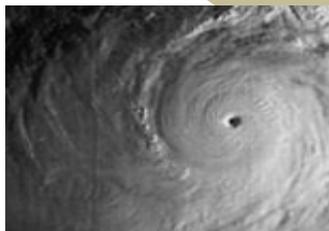
企業業績



新型コロナ



異常気象



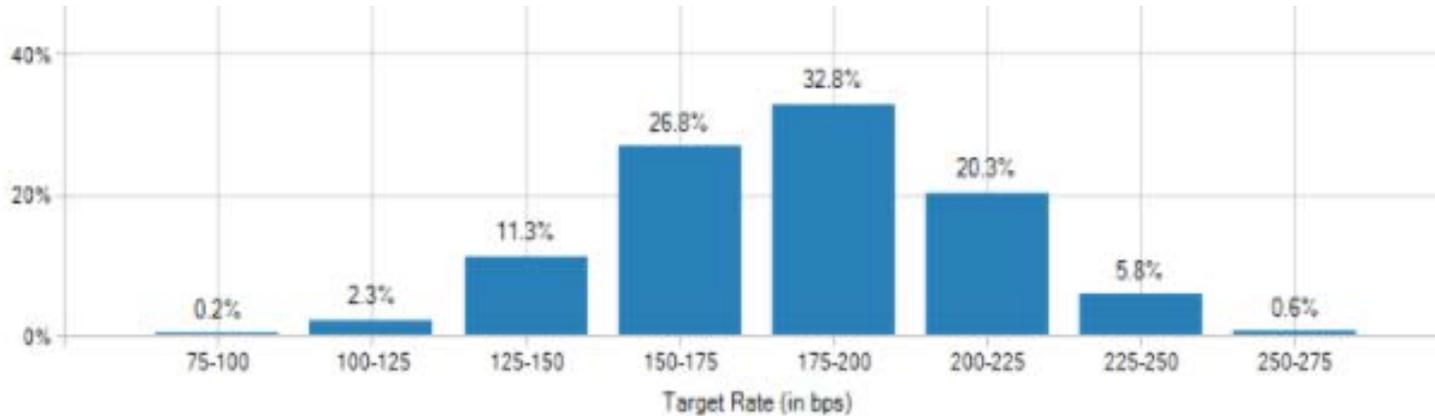
選挙





米国で利上げペースがかなり早まるか？ (P.5)

CMEのFedWatch (CMEに上場するFF金利先物から算出した市場予想)



TARGET RATE (BPS)	PROBABILITY(%)			
	NOW*	1 DAY 11 2 2022	1 WEEK 7 2 2022	1 MONTH 14 1 2022
0-25 (Current)	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
25-50	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
50-75	0.0%	0.0%	0.0%	10.1%
75-100	0.2%	0.5%	2.9%	25.4%
100-125	2.3%	4.2%	15.4%	32.3%
125-150	11.3%	15.5%	32.1%	21.7%
150-175	26.8%	28.8%	31.9%	7.5%
175-200	32.8%	29.3%	14.9%	1.1%
200-225	20.3%	16.4%	2.7%	0.0%
225-250	5.8%	4.7%	0.0%	0.0%
250-275	0.6%	0.5%	0.0%	0.0%

* Data as of 14 2 2022 08:37:38 CT

CME FedWatchの動向から、さらに利上げ方向に向いているのかに注目しています。

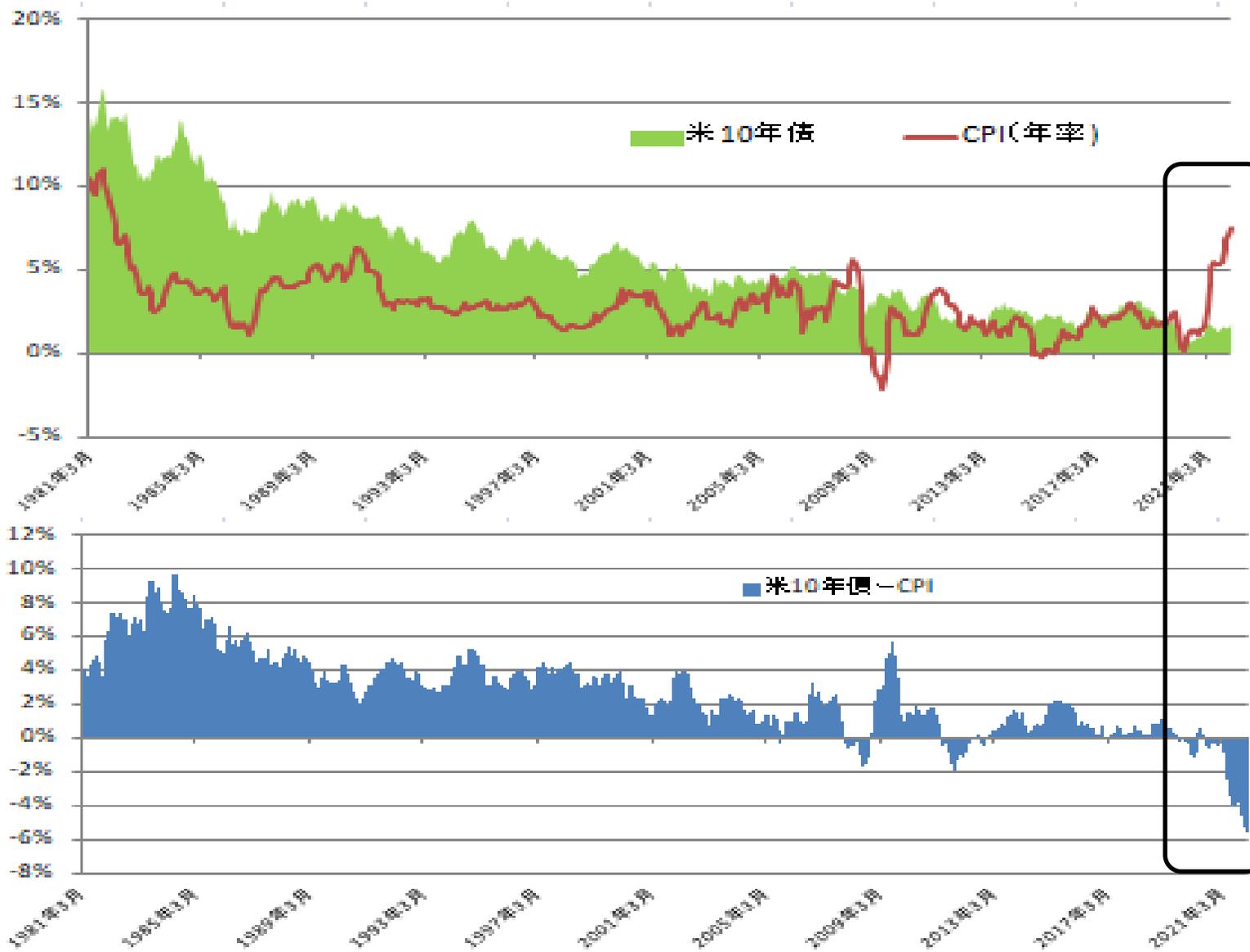
FedWatch ではFF金利が2022年末に1.50から1.75%になると予測する向きが増えています。2%以上の予想も増えてきています



とはいえ、すでに後手後手となっていますし、金融当局がインフレを退治できると考えるのは、いささか楽観的過ぎるかもしれません



米10年債は通常CPIよりも高い (P.6)



米CPIの急騰に米国債相場が追いついていないのは、いまだに力ネ余りの状況が続いているのが根底にあると思います。しかし、どこかで限界が来るとも考えています

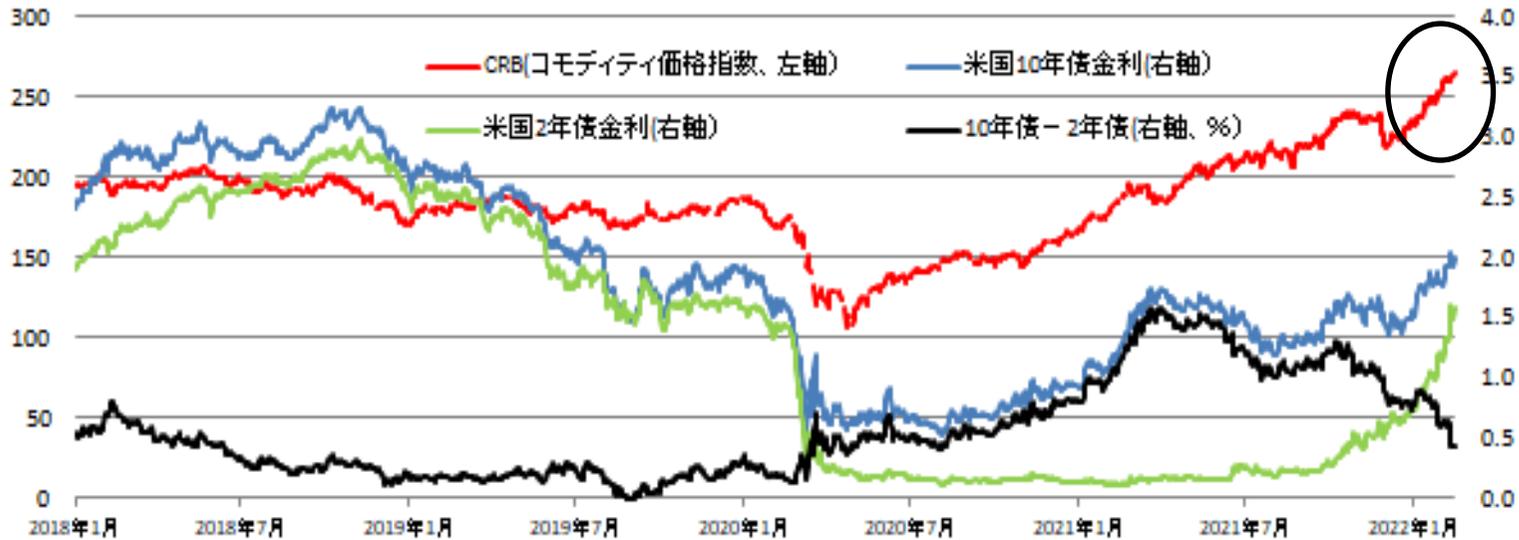


今回も2013年のようにテーパートラム(量的金融緩和の縮小)に対する金融市場の混乱が起こり得ると考えています。失敗すれば、金利急騰もあり得ます

出所) 米労働省、ブルームバーグより筆者作成 2022年1月末現在



米長期金利(米国債利回り)が上昇 (P.7)



米国債の2年物と10年物の利回り差が縮小しているのは将来の景気が失速する可能性を示唆していると考えられています。スタグフレーションですね。



過去に米国の長短金利差が逆転し、逆イールドになると、その後、景気後退になることが多いという経験則があります

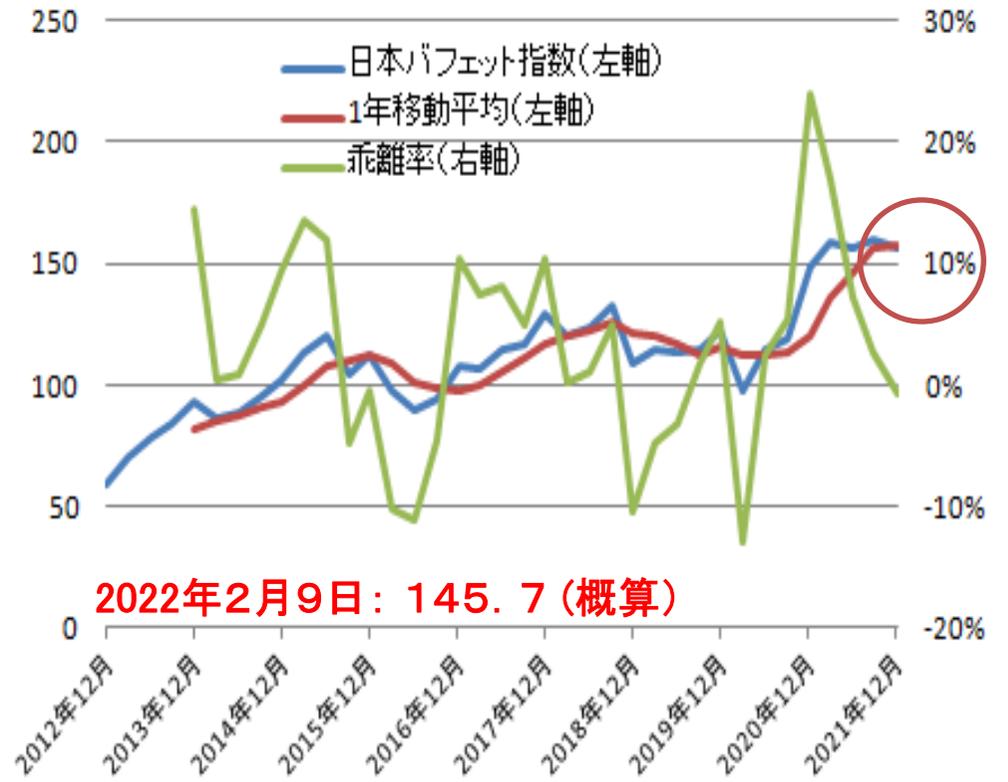
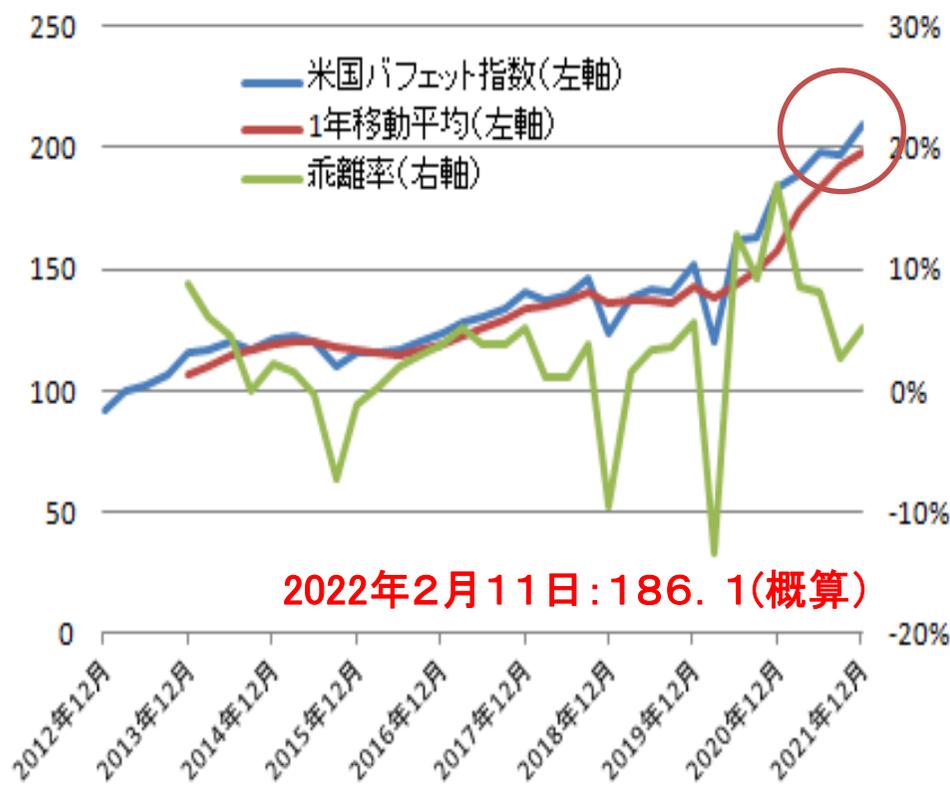


日本のバフェット指数は過小評価 (P.8)

バフェット指数 (%) = 株式時価総額 ÷ 名目GDP

ウォーレン・バフェット氏が重視しているとされる指数
一般に100%を上回れば割高、下回れば割安と解釈される
※緑線の「乖離率」は指数と1年移動平均との乖離

日本株は一時160%を超えていました。バブルが弾けた1989年末でも145%程度でしたから異常です。GDPが「下駄をはいている」なら、**実態はさらに高いことになります**



出所) IMF、OECD、世界取引所連盟等から筆者作成 (チャートは2021年12月末まで)

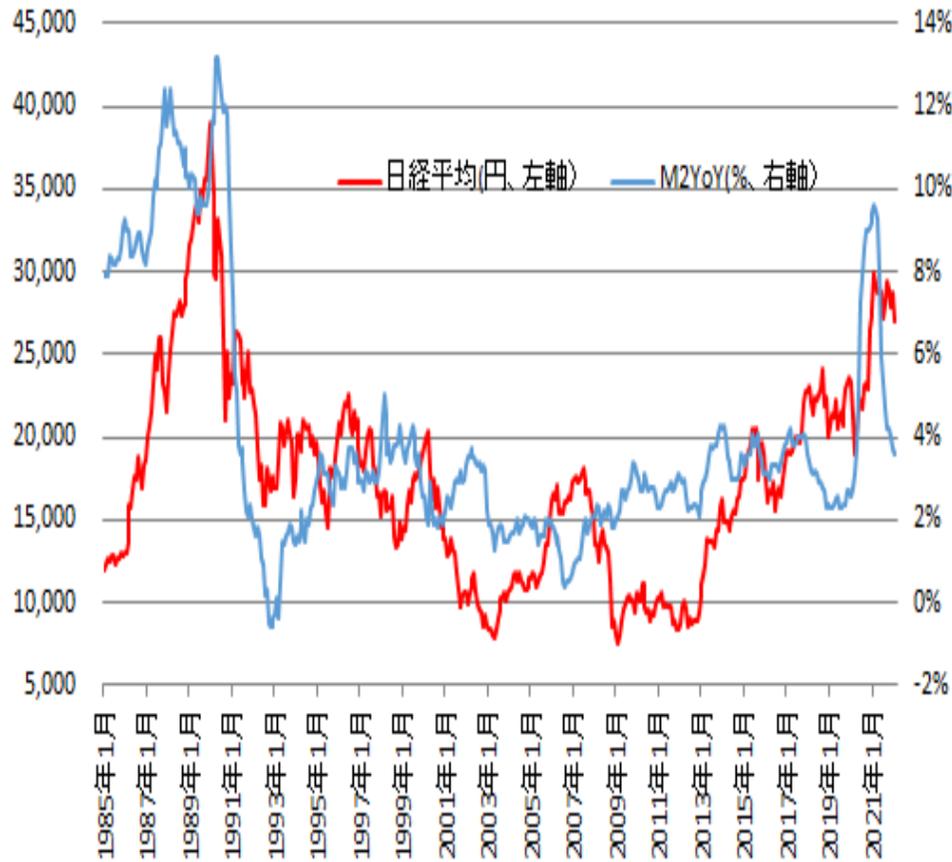


日米マネーの動きは明らかに変化が (P.9)

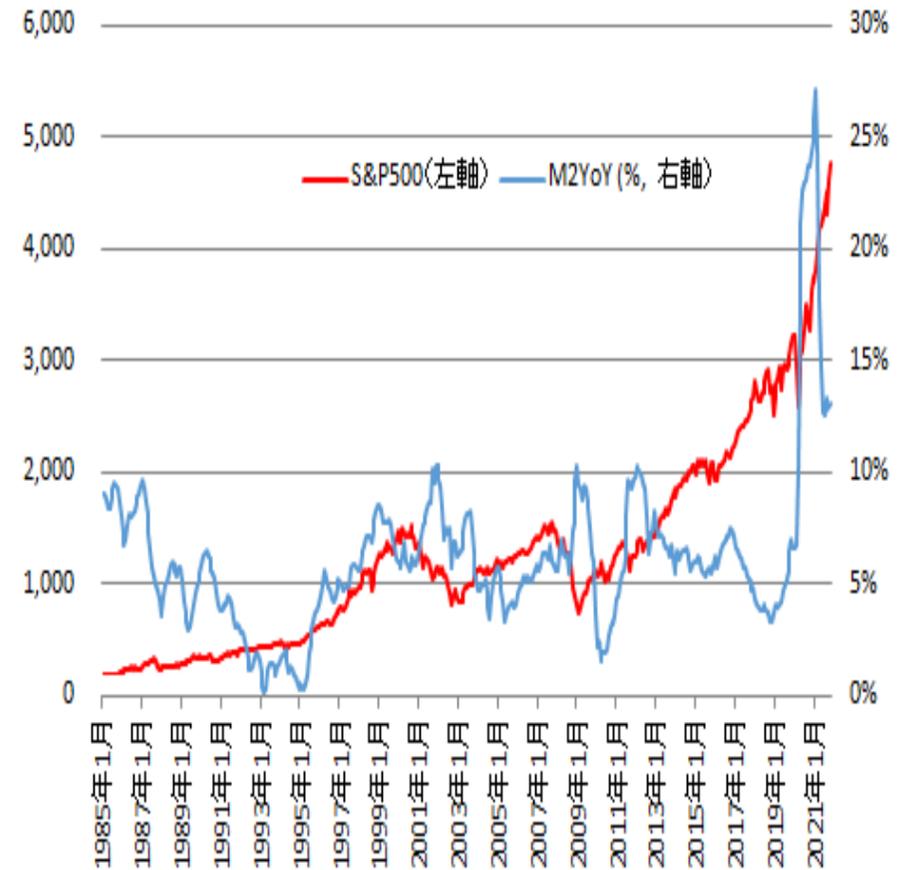
M2 (通貨供給量:マネーストック) = 現金通貨 + 預金通貨 + 準通貨 (定期預金など) + CD (譲渡性預金)

※預金通貨・準通貨・CDの発行者は国内銀行など

<日本>



<米国>



出所) 日本銀行、FRB、ブルームバーグ等より筆者作成(日本:2022年1月、米国2021年12月)



明らかに相場付きは変わった (P.10)

NT倍率が下がるときは、株式市場が軟調となる傾向がありそうです

NT倍率 = 日経平均 ÷ TOPIX (東証株価指数) (2022年2月14日現在)

ETF1306 TOPIX ETF1321 NK225



電気機器	18.0%	24.8%
輸送用機器	8.6%	NA
情報・通信業	7.7%	10.6%
小売業	NA	10.1%
化学	6.6%	7.6%
医薬品	NA	6.6%
サービス業	5.7%	NA
その他の業種	51.6%	38.1%
合計	98.1%	97.7%

ファーストリテイリング	NA	8.5%
東京エレクトロン	NA	7.0%
ソフトバンクG	NA	3.8%
トヨタ自動車	4.3%	NA
ソニー	3.0%	NA
キーエンス	2.0%	NA

信用倍率 = 信用買い残 (3.3兆円) ÷ 信用売り残 (0.7兆円)



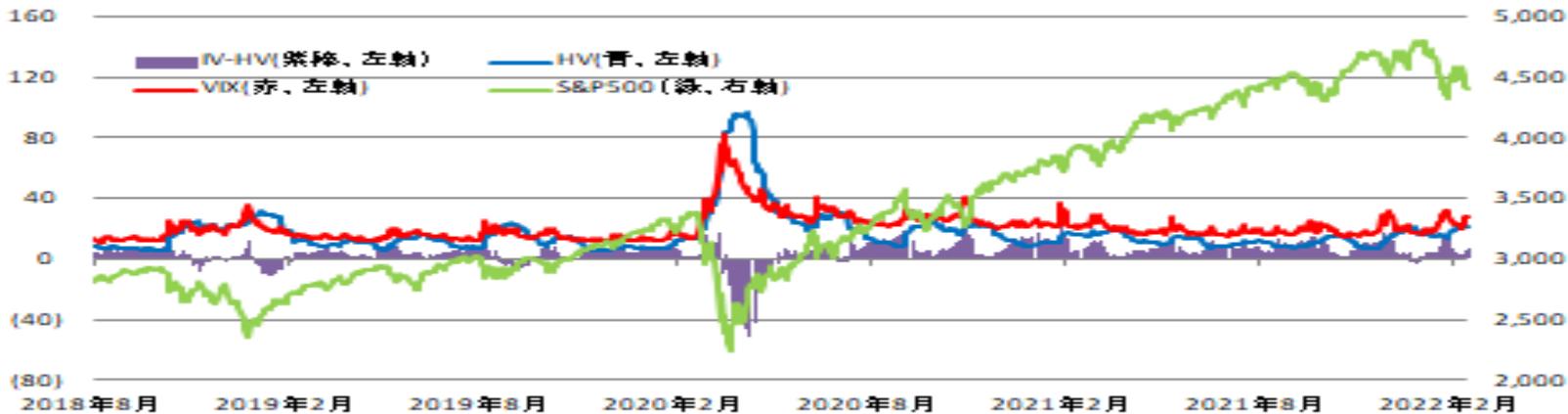
注) 東証33業種分類による、2022年1月末現在 (出所) 野村アセットマネジメント

すでに株を買えば短期的に報われるという相場ではないということです。海外投資家も買わず、高水準の信用倍率から個人もお腹一杯で「上がったら売りたい」という戻り待ちの売りが待つ状況です

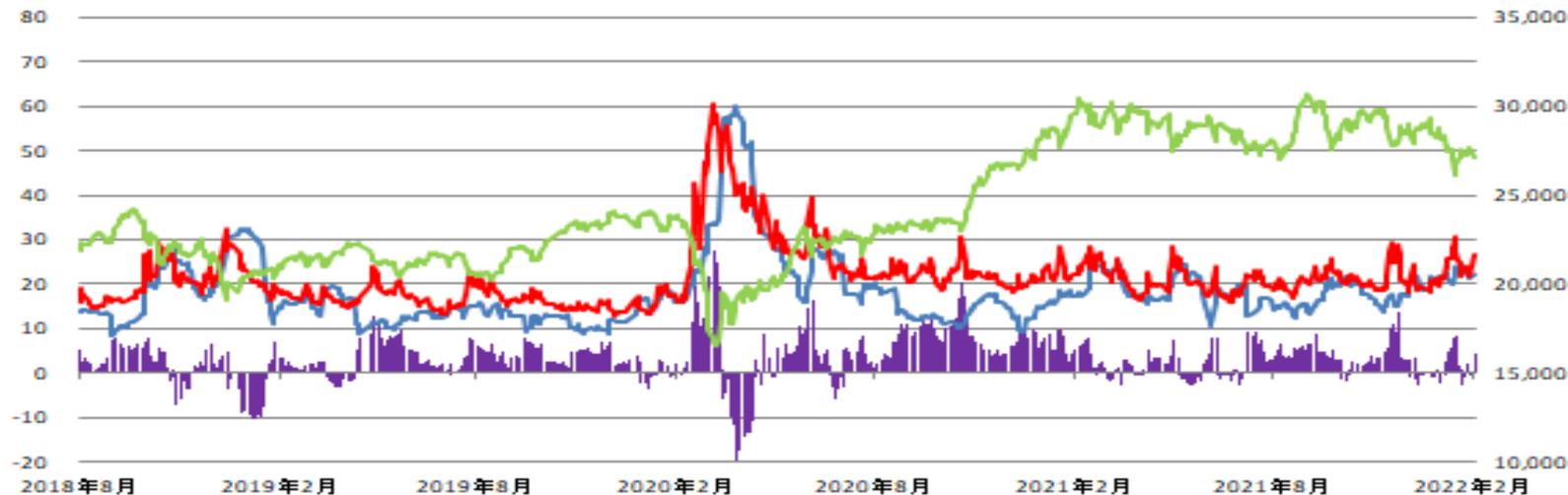
出所) 日経新聞などより筆者作成 (2022年2月4日現在)

HVとIVは相場の状況を語り掛けてくれる情報源 (P.11)

S&P500 (緑、右軸)、HV (青、左軸)、IV=VIX指数 (赤、左軸)、IV-HV (紫棒、左軸)



日経平均 (緑、右軸)、HV (青、左軸)、IV=日経VI (赤、左軸)、IV-HV (紫棒、左軸)

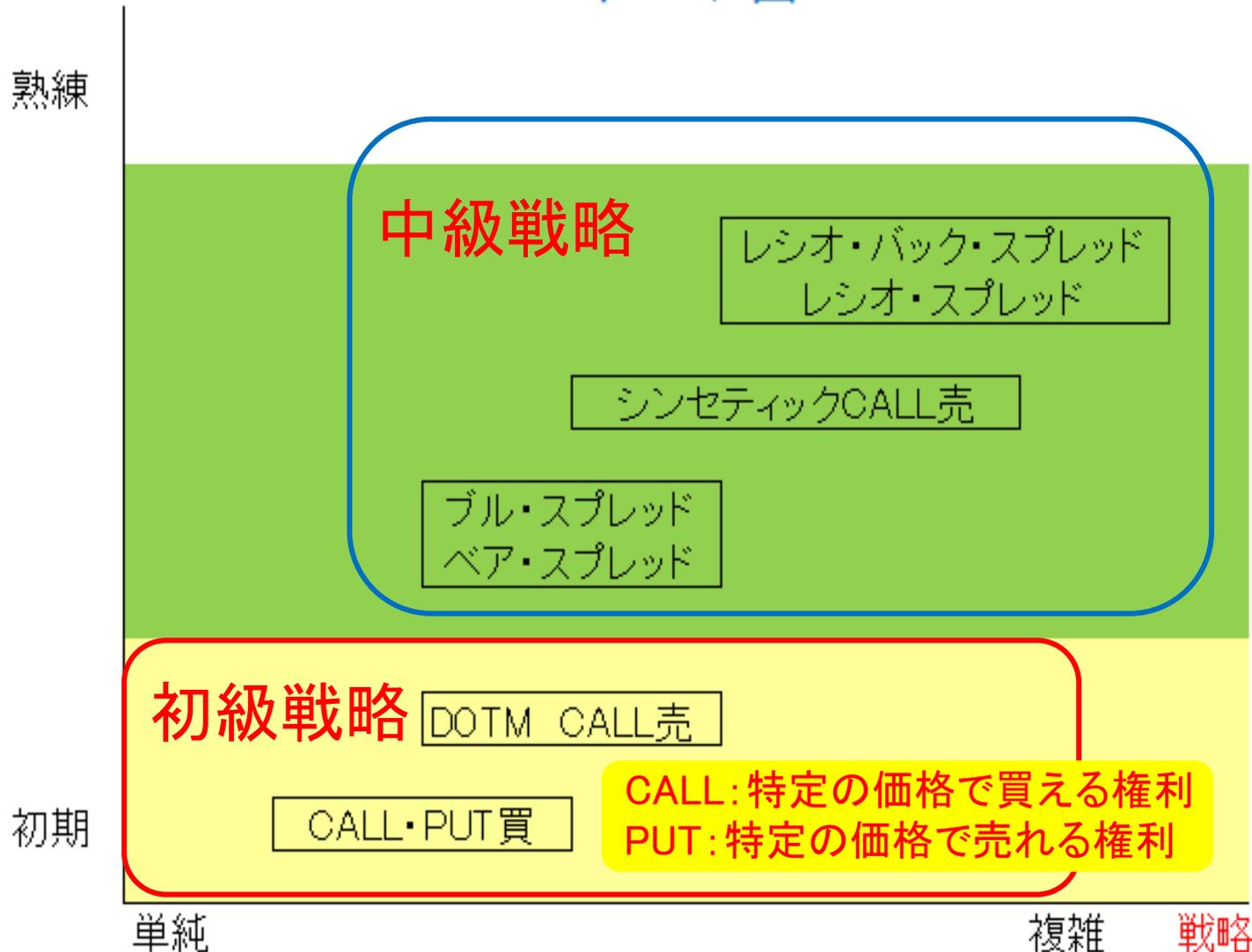


ボラティリティには過去の指数のデータから計算したヒストリカル・ボラティリティ (HV) とそのオプション価格から逆算したインプライド・ボラティリティ (IV) があり、それぞれが、また組み合わせで相場状況を伝えてくれます

OP売坊の日経225戦略イメージ＝初級戦略と中級戦略 (P.12)

経験・知識

イメージ図

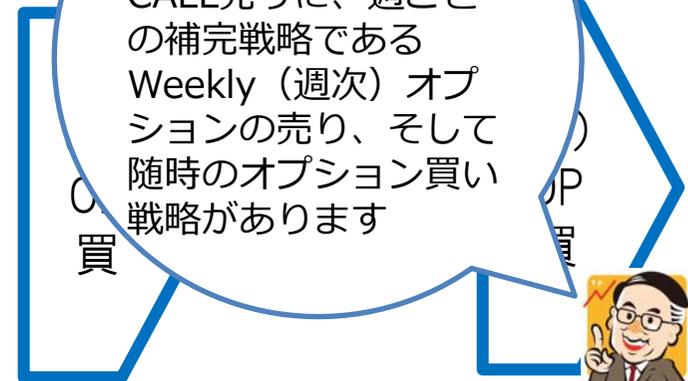
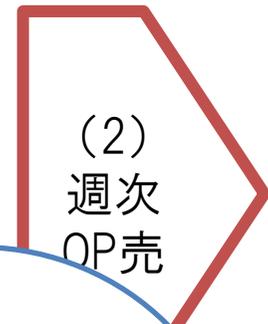
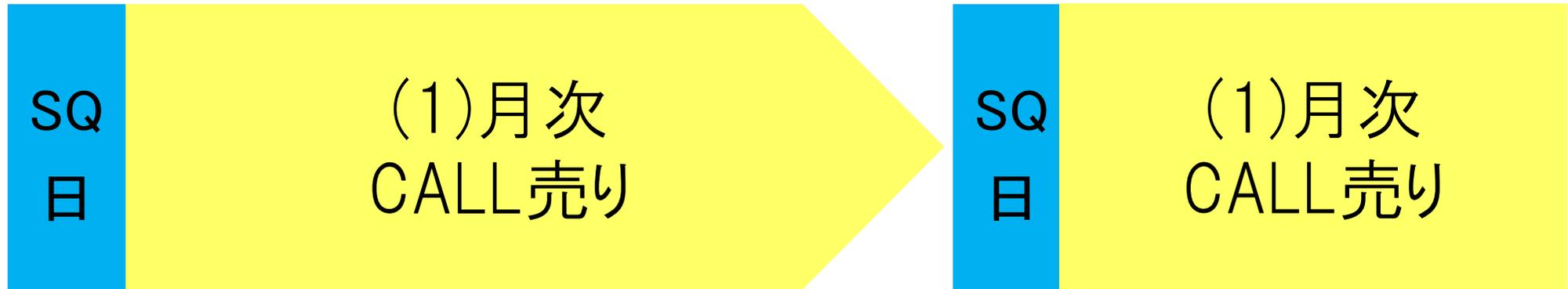


【オプション倶楽部】
OP売坊戦略コースでは、日経225オプションを対象とした初級戦略と中級戦略をご紹介します。新規の会員様には、まず初級戦略（単独CALL売りと単独OP買い）の習熟から始めていただければと考えています



CALL売りはOP取引最大の勘所である建玉管理と証拠金管理を会得しやすいと考えています

初級戦略のイメージ=2つの売り戦略と1つの買い戦略 (P.13)



初級戦略には、月ごとの主戦略である月次CALL売りに、週ごとの補完戦略であるWeekly (週次) オプションの売り、そして随時のオプション買い戦略があります



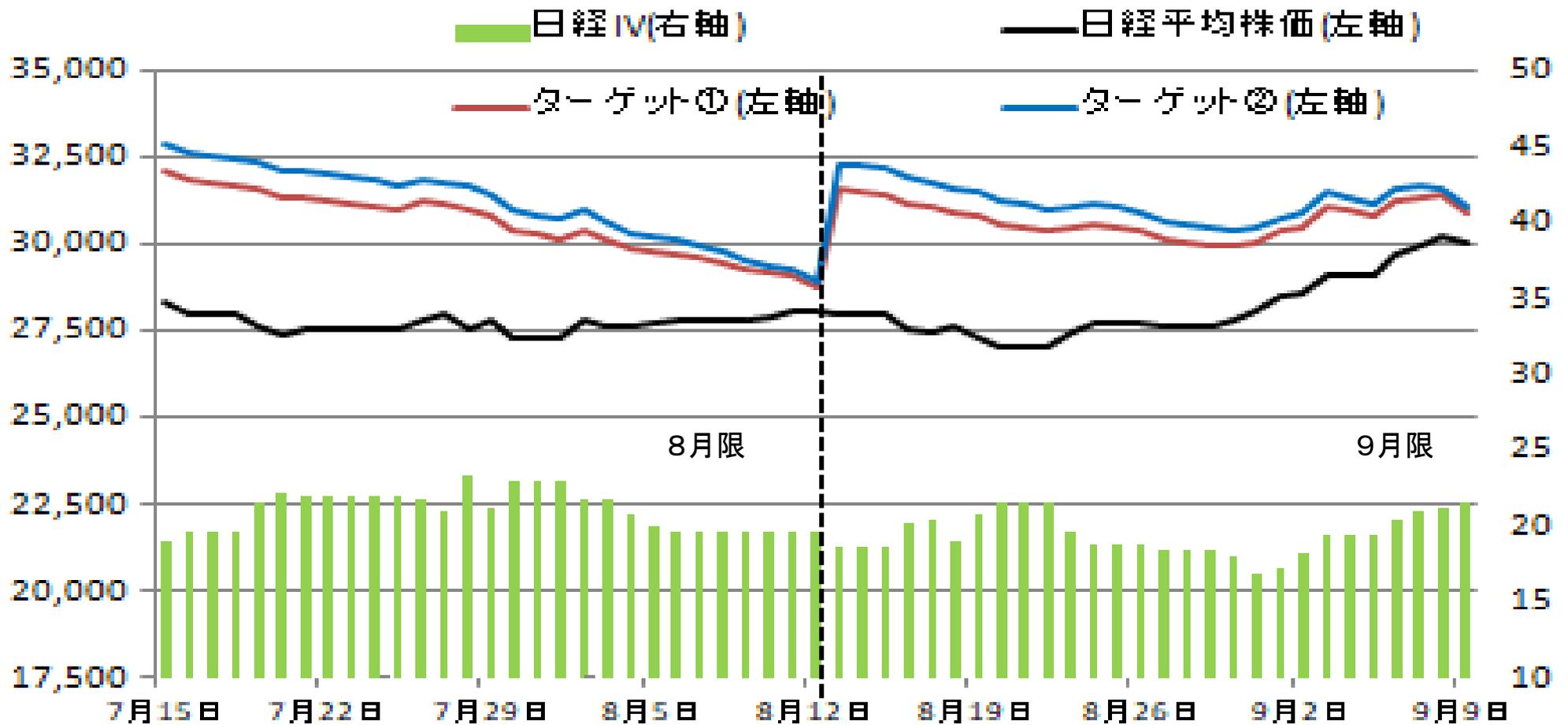
なぜ、225CALL売りなのか (P.14)

- 日経平均のレンジで勝負ができる(多少上昇しても負けない)
- D-OTM(現在値から離れたところの権利行使価格)のCALLを売るので
低めの証拠金で、高めのボラティリティ(IV)で勝負ができる
- 危険性は日経平均の暴騰ですが、暴落に比べれば予見しやすい
- 日経平均が上昇したときは全体でボラティリティが低下しやすい
- 期近(満期まで数週間)を売るので急速なタイムディケイがある
- 期近(満期まで数週間)を売るので毎月決着する
- 月ごとに安定したキャッシュフローを期待できる
- 今のところ日本のインフレ率は低い(株価は名目値)
- 年金は株式でも運用されている



年金の一部は日本株や外国株に投資しています。運用がうまくいけば、年金額が、少なくとも減少しないかもしれませんが、一方、低迷すると、将来の年金給付額が減少する悲惨な状況となるかもしれません。一方、CALLを売っていれば、株価が低迷して年金が減っても、その補完となりえます。分散投資ですね

CALL売りのイメージ (P.15)



ターゲットの水準はボラティリティや他の指標でチェックしています



現在値からかなり離れた権利行使価格のCALLでも売れる機会があるのは、将来の株価急騰へのヘッジで買おうとする人がいるからです。また、先物・PUT・CALLの間で裁定取引も働きます。株式市場が割高と考えている状況とはいえ、株式を買わなければならない状況の投資家は、現物や先物で買い建てるより、損失限定でCALLを買って、上昇相場に保険を掛けることもできるわけです

出所) 日本経済新聞などから筆者作成

OP売坊の重要視しているもの (P.16)

確率、勝率、収益率
パターン分析(時系列、分布)
資金管理、リスク管理
簡単、シンプル

次回は**3月23日**に出演させていただく予定です。本資料は番組HPまたはオプション倶楽部HP (optionclub.net) から無料メルマガ「グレイ・リノ通信」にご登録いただくと取得できます。メルマガでは補足Q&A記事などの情報も配信しておりますので、ぜひぜひご参照ください！



オプション倶楽部



最後までご清聴、誠にありがとうございました。

筆者ブログ『実践日経オプション教室』

<https://jissennkop.blog.fc2.com>

Copyright (c) 2019–2022日経OP売坊

All rights reserved. This report is for authorized recipients only and not for public distribution.